

東区 町名の由来

参考文献: 東区史、東区の歴史、東区の昔話と伝説を訪ねて(岡田弘) *太字は残っていない旧町

相生町	あいおいちょう	元々鉄砲塚と呼ばれていた。明治4年南側の九十軒町と合わせ相生町となった。二つの町が末永く榮様に相生とした。
葵町	あおいまち	御下屋敷があった地域。明治11年葵町に
赤塚町	あかつかまち	昔この辺りに赤土の大塚があった。生産神(うぶすながみ)の参道筋として栄えた
赤萩町	あかはぎちょう	赤紫の萩が沢山咲いていた。また、がけ地を意味した地名とも考えられる。
安房町	あわまち	安房様屋敷があった。
飯田町	いいたまち	元和二年小平治という人の家があったので小平治町とっていた。また、古くは作子町(つくりこ)、田町、天道町と言っていた。繁栄する江戸の飯田町にあやかって承応二年に改名した。
石神堂町	いしがみどうまち	石神堂(物部神社)があった。明治11年4つの小路を合わせ石神堂町と改めた
板屋町	いたやちょう	藩政時代に板長屋があった。
往環町	おおかんちょう	昔は通玄山筋と言われた。明治9年十軒、三軒小路と合わせ往環町となった。往環手代衆の屋敷が大曾根は元々春日井郡であった。曾根と言われる地名は城下町市場から一里離れたところに付けられている。大曾根口と言われ交通の要所であった。一説には河川の底根/砂地の曾根から。
大曾根町	おおぞねちょう	元 法華寺と呼ばれていた。明治5年小川町に。
小川町	おがわちょう	昔富士神社の大杉の霊木があった。
上堅杉町	かみたてすぎのまち	御下屋敷造営の際石材運搬の車が通った道・一説には建中寺の運搬車が通った。明治11年朝日町と糸屋町を合わせ約1kmの車道町となった。
車道町	くるまみち・まち	高岳院の眼替上人の隠居寺自然院が京都黒谷と縁があり黒谷門前と呼ぶようになり後に黒門町になった。一説には二の丸の黒門の警備にあたった同心が住んだ。
黒門町	くろもんちょう	遷府の際石材を切ったとの云われ。又米穀商が米穀の単位の石をとって町名とした。
石町	こくちょう	城下から大曾根村に通じる信州街道に大きな坂があった為。
坂上町	さかうえちょう	志水坂に井戸があり清水町となった。七尾天神から清水が湧き出ており弘法大師が通られた時その水を差し上げたと言われている。
清水町	しみず・まち	慶長の頃、豊田と言う武士が邸宅の塀を白壁とした。当時は白壁は少なかったので町名となった。
白壁町	しらかべちょう	二代藩主光友の屋敷跡が武士屋敷や町屋になり古出来町の西に新しく出来た町。
新出来町	しんできまち	建中寺の構内の堀から湧き出る清水を渡す樋(とい)があった。
水筒先町	すいとうさき・まち	昔、富士神社の境内は広くこのあたりに大きな杉の木があった。
杉ノ町	すぎの・まち	慶長年間家康が往来した街道筋で駿河街道と称していた。一説には富士塚に近く駿河国にちなんで町名とした。飯田街道と呼ばれる。
駿河町	するがまち	綱誠は御下屋敷拡張の際、自然院を建中寺の横に移しそこを添え地とした。宗春の時その地を武家屋敷として『御下屋敷の添地』と言われ明治4年添地町となった。
添地町	そえちまち	昔鳥獸が多く住み幸が豊富と言う意味で大幸(おおさち)と呼ばれていた、その後『だいこう』と音読みするようになった。昔話では大きな河が大幸(だいこう)にも言われた。
大幸町	だいこうちょう	昔前津町付近は海辺でありその北側に小高い山がありそこを汐見山と名付け名勝の一つであった。そこに高岳院が建てられ高岳院門前とよばれ明治5年高岳町となった。
高岳町	たかおかちょう	昔大代官太田九左衛門の家があったことから代官町とよばれた。
堅代官町	たてだいかんちょう	清州越しの時、野呂瀬主税が住んだ。
主税町	ちよきゆうじ・まち	長久寺があることによる。
長久寺町	ちよきゆうじ・まち	昔手代屋敷が多くあった。裏宮井町の南の筋を通玄筋といった、石黒通玄がすんだ。
手代町	てだい・まち	舎人八左衛門が住んでいた。又、昔話では義直が鷹狩に出た際、舎人某が遅刻し舎人が地名となつ
舎人町	とねりちょう	七箇寺の門前町を合わせた町。
七小町	ななこまち	この地は碁盤割の区画から外れ道筋が幾度となく曲がりくねり地名となった。
七曲町	ななまがりちょう	鍋屋町の水野太郎左衛門が晩年再びこの地に住んだことから地名となった。
鍋屋上野町	なべやうえのちょう	清州越しで鍋屋町がここに移る。清州の鍋職人が多くここに引越した。水野太郎左衛門の住居。
鍋屋町	なべやちょう	かつては長堀筋と呼ばれ武家屋敷ばかり。北側は成瀬、竹腰家老の下屋敷で壁が長く続いていた。
長堀町	ながへいちょう	万治3年(1660)の大火の後の、大津町の南、蒲焼町にあった武家屋敷を移した。新しく造られた町であることから新町の名が付いた。
東新町	ひがししんちょう (とうしんちょう)	城の東外堀沿いには成瀬、竹腰家の中屋敷がありその庭は広く松の古木がありそれに因んで明治初年、二葉町と名付けられた。
東・西二葉町	ふたばちょう	嘉永19年(1642)義直の母相応院は江戸で死去、翌年城の南東にあたる大きな池で法要が行われ高岳院住職の眼替が寺からこの池まで布を敷き詰めたと言う。布が池から明治4年布池町と名付けされた。昔話ではきれいな池であった為、娘たちがここで布を洗ったことから布池と付けられた。
布池町	ぬのいけ・まち	外堀の南沿いは片側だけが武家屋敷であったので片端筋と呼ばれていた、東片端は明治5年南外堀に一括されたが、11年に復活した。
東片端町	ひがしかたはまち	元矢場があった所で城下に南にもありここを東矢場町と呼んだ。
東矢場町	ひがしやばちょう	清州越しの町で、干物町と呼んでいたが義直が「以後、久屋町と呼べ」と言って変わった。
久屋町	ひさやちょう	片山神社天武天皇の鎮座と言われる古い神社で、寛文年間(1661-72)に竹腰家家臣の吉田弥四郎が吉野桜を境内に植えたのが有名となり明治4年芳野町となった。
芳野町	よしのまち	渡邊半蔵 百人組同心の住居 10~100石
百人町	ひやくにんちょう	光友が大曾根に下屋敷を造営した時御庭番八人の足軽の家として8軒たてた所。
八軒家町	はちけんやまち	武家屋敷の南に富士権現を祭った塚山があったので町の名にした。
富士塚町	ふじつかちょう	義直の家来に松井武兵衛と言う御普請奉行がおり禄高400石、清州越しの際城の南に居を構え町割り、屋敷割りなど城下町を設計した功労者。のち明治44年武平町とした。
武平町	ぶへいちょう	平岩親吉が三河に建立した平田院は親吉が犬山城から片端筋に移った時、平田院も移動し、建中寺の末寺となった。平岩は家康子飼いの家来、松平忠吉が清州城主になるに際し国政を取り仕切った。(平田院は平成2年に天白区へ移った)
平田町	へいでんちょう	昔は禅寺町筋と呼んでおり、曹洞宗の寺が多くあった。明治11年松山町となった。
松山町	まつやまちょう	岡田弘の『東区の昔話と伝説をたずねて』では、源義家が前九年の役のおりこの地に達より一休みの時部下に水を所望した。百姓からこころは地下から良い水が出ると言われ田に矢を差し込んだら美味しい水が湧き出た。他には瘦せた耕地を谷田(やつた)から矢田へ、又、山田から矢田へ色々な説がある。織田信雄の朱印状に矢田とある古い地名。
矢田町	やだちょう	那古野山の入り口から山口とついた。明治17年長堀町から山口町へ改められた。
山口町	やまぐちちょう	